

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年1月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

播種適期である12月上旬までに96%播種が終了した(前年同期94%)。11月中下旬播きは出芽良好であったが、12月上旬播きは、ほ場の乾燥により出芽が遅れ、播種時期の違いによって生育差が大きいです。11月中下旬播きは3~4葉期で、麦踏みが1月上旬頃より行われています。今後、追肥や土入れが行われます。12月上旬播きは2葉期で、これから麦踏みが行われます。12月~1月上旬が低温に経過し、生育は遅れています。12月下旬以降の降雨により雑草が発生し始めています。

ほ場の湿潤状態が続いており、排水溝を整備し、排水対策を徹底しましょう。麦踏みは土壌水分が低い時に行いましょう。追肥を施用し、土入れを行いましょう。雑草の草種や発生状況を確認し、茎葉処理除草剤を適期に処理しましょう。

◇施設キュウリ◇

10月中下旬定植の促成作型は、低温と寡日照の影響により、果実伸長が遅く、年末から出荷量が減少しています。また、着果数が多い状態のため全体的に草勢が弱いです。病害虫の発生は少なく、一部で菌核病、退緑黄化病が散見されます。半促成作型は1月下旬から順次定植が始まる予定です。

日中のハウス内温度の確保、こまめなかん水、炭酸ガス施用等により、草勢の維持に努めましょう。今後は、灰色かび病の発生に注意し、べと病の感染拡大を抑制するため、草勢や温湿度管理に注意しましょう。

◇冬春ナス◇

8月中下旬定植作型は、年内の生育が順調で例年より出荷量が多い状況であったが、年明け以降、低温と寡日照の影響により草勢が低下気味に推移しています。9月上旬以降の定植作型は、年内の出荷量が多く、着果負担が大きかったのに加え、年明け以降の天候により、年内の草勢低下が現在も続いています。今後、天候回復により草勢が回復し、1月下旬頃から出荷量が増加する見込みです。灰色かび病が増加傾向にあり、すすかび病、菌核病、黒枯病が散見されます。現在もコナジラミ類が少発生しています。

2月中旬までに不要な芽を整理しましょう。生育促進のため、ハウスの保温性向上に努め夜温を確保するとともに、昼間のハウス内気温を28~30℃に保ちましょう。春先にコナジラミ類の増加が懸念されるため対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」は11月末で集荷終了しました。今年度の集荷量は、春季の霜害や花腐れ細菌病の発生、長雨、高温乾燥等の天候不順の影響で前年より2割強少ないです。なお、1月上旬までの出荷量は、海外産の在庫が多い等の影響で前年より少なく、現時点では3月まで出荷予定です。今後、前年より低温傾向で推移しており、寒害や次年度のかいよう病の発生等が懸念されます。

樹勢低下園では、休眠期に有機物の施用や排水対策を徹底し、樹勢回復に努めましょう。苗木や幼木では、寒害対策を徹底しましょう。せん定は、根傷みや早期落葉等の状況を考慮しながら実施しましょう。せん定後~発芽前かいよう病の冬季対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷(10~12月)作型が終了しました。9~11月の日照時間が多く、ブラスチング等の生育障害の発生は少なかったです。一方、出荷量は、作付面積の減少や立枯病の発生が多く減少しました。販売単価は、全国的に出荷量が少なかったことから、例年以上に高いです。春出荷(3~4月)作型における頂花の発蕾時期は11月下旬~12月上旬と平年並で順調に推移しました。

春出荷（3～4月）作型では、適時、整枝と摘蕾作業を継続し、プラスチック対策を徹底しましょう。かん水量は少なめで管理し、急性萎凋症の発症を防止すると同時に、ハウス内の湿度を低下させ、斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

豚枝肉価格は、家庭内需要に支えられ、安定した価格で推移しました。鶏卵価格は、家庭内需要が継続してあるものの、対前年、過去5年平均ほどは回復できませんでした。和牛去勢枝肉価格は、コロナ関連対策事業の効果と輸出が順調に増加したことにより、前年比112%と、過去5年平均と同水準まで回復しました。交雑種見合いの省令価格も同様に回復し、前年、過去5年平均と同水準程度となりました。

厳寒期となり子牛の防寒対策を徹底しましょう。家畜伝染病予防のため、舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。